

## Microsoft Bing、ブルーリンクを廃止した完全AI検索のテストを開始

Microsoft は 検索エンジンの Bing で「AI Search(AI検索)」と呼ばれる新機能の試験を開始した。

Microsoft は 検索エンジンの Bing で「AI Search(AI検索)」と呼ばれる新機能の試験を開始しました。

[Windows Latest](#) が報じています。

### 従来の検索から AI による要約への移行

Microsoft Bing の AI Search は、従来の青いリンクによる検索結果を AI による要約の回答に置き換えることを目的とした機能です。

従来の検索エンジンと ChatGPT のような会話型 AI モデルの間のギャップを埋めるという、Microsoft の広範な戦略の一環です。

Google や Bing など従来の検索エンジンは、青いリンクとスニペットで構成されるリスト形式の検索結果を表示し、ユーザーがウェブを巡回しながら詳細情報を見つける形式です。

しかし、[週 4 億人のユーザーを抱える ChatGPT](#) のような AI チャットボットの人気が高まるなか、より直接的で要約された回答を求めるユーザーの傾向が強まっています。

こうした動向に合わせて、従来の検索エンジンとは異なるスタイルの AI 検索の開発に Microsoft は着手したのです。

### 検索結果に AI 生成回答を統合

Bing AI Search は、Copilot を活用したインターフェイスを採用し、

AI による要約を従来の青いリンクよりも優先表示します。

既存の Bing の Copilot 統合は、専用のボタンを押すことで

別のページに移動する仕組みでした。

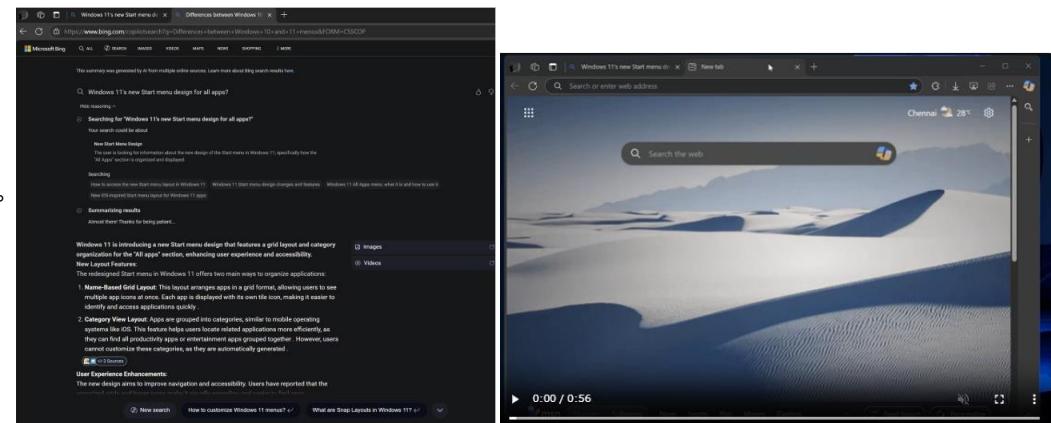
対して、AI Search は検索結果ページ自体に AI を直接統合しています。

この新しい UX では、AI 生成の要約をユーザーに即座に提供することができます。

AI 検索エンジンの Perplexity にも類似したインターフェイスで、

ウェブ上の情報を要約し、回答の下部に「情報源」として引用を明記します。

また、一部の回答には、直接ウェブサイトへアクセスできるリンクも含まれます。



## Microsoft Bing、ブルーリンクを廃止した完全AI検索のテストを開始

Microsoft は 検索エンジンの Bing で「AI Search(AI検索)」と呼ばれる新機能の試験を開始した。

### AI 駆動型検索

Bing の AI Search は単なる要約にとどまらず、「thinking out loud(考えを声に出す)」という思想も取り入れています。

ユーザーが質問を入力すると、AI がクエリを分解し、さまざまな角度から分析した上で回答を生成します。

たとえば、[Is Windows 11 24H2 safe?](Windows 11 24H2 の安全性は?)と質問した場合、次のような観点を考慮してAI Search は要約を作成します。

- ・ アップデートの安全性
- ・ リスク
- ・ 互換性

このプロセスにより、より包括的でニュアンスのある回答が提供されます。

またユーザーは、従来の検索結果表示に簡単に切り替えたり、画像や動画を検索したり、引用された情報源をクリックして詳細を確認したりすることも可能です。

さらに、ユーザーは従来のリンクをクリックせずとも、フォローアップの質問を通じて検索結果を絞り込むこともできます。

### AI Search の現在の状況

Bing AI Search は現在、一部の地域でテスト段階です。

Microsoft 関係者によると「まずまずの品質」と評価されています。

Microsoft は試験運用を認めていますが、詳細や正式リリースのスケジュールについては明かしていません。

実験的な段階であるため、バグが発生したり、動作が遅かったり、誤った結果を出す可能性があるものの、今後の改善が期待されています。

また、Bing の「Copilot」ボタンは引き続き利用できます。

AI Search は、従来の Bing 検索と AI チャットボットの Copilot の機能を組み合わせた新しい検索体験として位置付けられていて、現時点ではデフォルトの検索モードに置き換わる予定はないとのことです。

## Microsoft Bing、ブルーリンクを廃止した完全AI検索のテストを開始

Microsoft は 検索エンジンの Bing で「AI Search(AI検索)」と呼ばれる新機能の試験を開始した。

ChatGPT Search や Perplexity のように、従来の検索エンジンとは違い、生成 AI が要約形式の回答を作り出す AI 検索が少しずつとはいえ使われ始めています。現状では“アーリーアダプター”の利用が中心でしょうが、5 年、10 年の長いスパンで見るとキャズムを超える可能性も十分にあります。

その証拠に Google も、[検索での AI モード](#)を開発中で、[社内テストが始まった](#)といいます。

今年 5 月の [Google I/O](#) で脚光を浴びるような発表が Google からあるかもしれません。

Google はさておき、Bing の AI Search がどんなふうに仕上がるのかに注目です。

検索エンジンとしての長い歴史があるので、インデックスの範囲や速度という観点では、OpenAI や Perplexity よりは一日の長があります。

早く試してみたいですね。

## Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

Microsoft Bing が AI Search という新しい検索プロダクトのテストを始めたことを[昨日の記事](#)で紹介しました。

AI Search では、従来の検索結果のようにウェブコンテンツから取得したの青いリンクが提供されるのではなく、AI がクエリに対する概要を生成されます。

この AI Search を実際に使えるので、今日の記事で続報をお伝えします。

### 複数のオンラインソースから AI が概要を生成

こちらは [Windows 11 24H2 の安全性は?] を Bing AI Search で検索したときの様子です。

主な安全性の懸念:

- セキュリティ更新の不具合: Windows 11 24H2では、特に物理メディアを使用してインストールした場合、今後のセキュリティ更新が受信できなくなる重大なバグが報告されています。この問題は、2024年10月8日から11月12日の間にリリースされたメディアを使用した場合に発生します。[microsoft.com](#)†
- 互換性の問題: Intelのドライバーとの互換性に関する問題があり、特定のデバイスでカメラ機能に影響を与える可能性があります [microsoft.com](#)。これにより、顔認識やカメラアプリの使用時に問題が発生することがあります。
- その他のバグ: 自動HDR機能を有効にしていてもゲームで特定のゲームが応答停止する問題や、音声出力に関する障害も報告されています [microsoft.com](#)†。

最近の修正:

- 2024年11月のアップデートでは、約100件のセキュリティ脆弱性が解消され、多くの既知の問題が修正されました [microsoft.com](#)。これにより、Windows 11 24H2の安全性は向上しています。

このように、Windows 11 24H2にはいくつかの安全性に関する懸念がありますが、最新のアップデートによって多くの問題が解決されているため、定期的なアップデートを行うことが重要です。

ソース

- Windows 11 バージョン 24H2 の既知の問題と通知... <https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/release-information#known-problems-and-notifications-for-windows-11-version-24h2>
- Windows 11 バージョン 24H2には注意！現在報告の不... <https://trackit.com/windows-11-24h2-issue-info>
- [収集] Windows 11 24H2の重大不具合に関する注意機能と... [https://note.com/hateni\\_system/note231716ed230](https://note.com/hateni_system/note231716ed230)

新しい検索 Windows 11 24H2のセキュリティ対策は？ 24H2の互換性問題を解決する方法

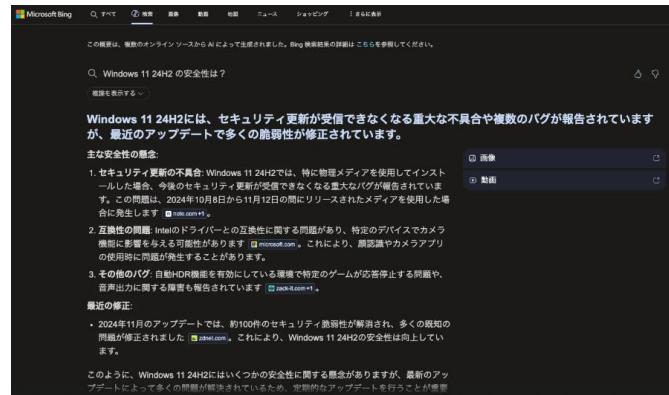
一瞬で結果が表示されているように見えますが、実際には数秒かかります。

体感的にはけっこう待ちます(つまり遅い)。

## Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

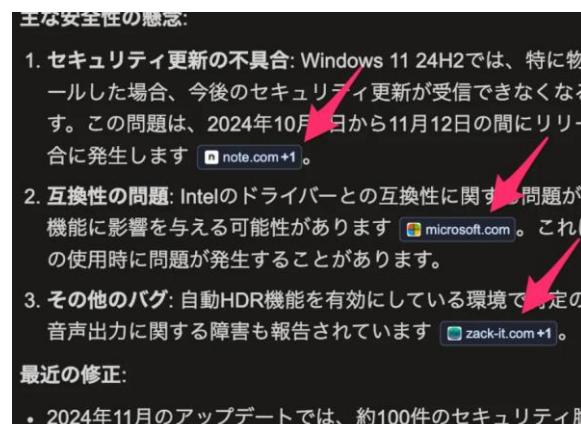
Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

こちらは、同じクエリでの検索結果の AI 生成結果の静止画キャプチャです。



上部には「この概要は、複数のオンラインソースから AI によって生成されました」という注釈がでている

概要の各段落には、情報源となったウェブコンテンツへのリンクが提供されています。



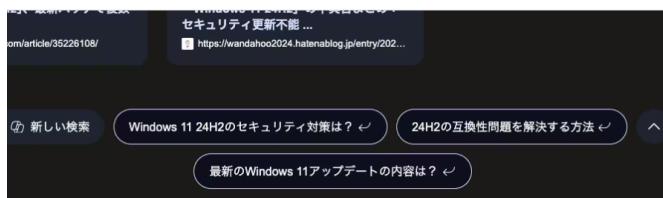
## Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

概要の下には、情報源となったウェブコンテンツが今度はカードスタイルで提供されます。



追加質問ができます。



事前に提供された追加質問だけで、任意の質問は入力できません。

自由な対話形式でないのは不便に感じます(今後改良される？)。

「推論を表示する」というメッセージを展開すると次の情報を見ることができます。

- クエリをどのように解釈したのか
- どんな情報をウェブから検索したのか

## Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

AI が背後で検索意図をどのように処理したのかがわかるのは安心できます。

The screenshot shows the Microsoft Bing AI search interface. The query "Windows 11 24H2 の安全性は？" is entered in the search bar. A red arrow points to the "推論を表示する" (Show inference) button. Below the search bar, the inferred intent is displayed: "Windows 11 24H2には、セキュリティ上の問題や既知の不具合について知りたいと考えています。" The search results include a snippet from sweetvillage.com about Windows 11 24H2 security issues and links to related articles.

別のクエリの Bing AI 検索結果も見てみましょう。

[ハチミツは腐るのか] の AI 概要です。

The screenshot shows the Microsoft Bing AI search interface for the query "[ハチミツは腐るのか] の AI 概要です。". The inferred intent is "ハチミツは腐らないとされていますが、水分や細菌が入った場合は腐る可能性があります。". The results include a snippet from sweetvillage.com explaining honey's anti-bacterial properties and its shelf life, accompanied by a colorful illustration of honey and a spoon. Below the main result, there are three source links: "ハチミツ 腐る" (sweetvillage.com), "ハチミツは一生腐らない！その理由と注意事項 - GakuSha" (gakusha.com), and "生ハチミツの賞味期限はどれくらいですか？" (matsuie-honey.com).

概要自体は簡素ですが、大きなサムネイル画像が目を引きます。

## Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

[今年の花粉飛散量は例年と比べてどのくらい] のAI 概要です。

The screenshot shows the Microsoft Bing search interface with the following details:

- Search Bar:** "Q すべて 検索 動画 地図 ニュース ショッピング さらに表示
- Text Above Result:** "この概要は、複数のオンライン ソースから AI によって生成されました。Bing 検索結果の詳細は こちら を参照してください。
- Search Query:** "Q 今年の花粉の飛散量は例年と比べてどのくらい
- Result Summary:** "2025年の花粉の飛散量は、例年と比べて特に西日本で非常に多くなると予測されています。
- Section Headers:** "2025年の花粉飛散量の予測:" and "地域別の予測:"
- List Items:**
  - 全般的に多い: 2025年の花粉飛散量は、全国的に2024年と比較して多くなると予測されています。特に西日本では、飛散量が非常に多くなる見込みです。[tenki.jp+1](#)
  - 九州: 年平均の約2.8倍の飛散量が予測されています。[tenki.jp](#)
  - 近畿: 年平均の約1.9倍の飛散量が予測されています。[tenki.jp](#)
  - 関東: 年平均の約1.3倍の飛散量が予測されています。[tenki.jp](#)
  - 東北: 年平均よりは少なくなる傾向がありますが、平年と比べるとやや多くの見込みです。[spreading-earth-science.com](#)
- Text Below Summary:** "2025年の花粉飛散量は例年と比べて多くなると予測されており、特に西日本では注意が必要です。花粉症の方は、早い対策を講じることが重要です。
- Sources Section:** "4 ソース" with links:
  - 2025年の国内の花粉飛散量の予測が発表！例年何倍？花粉 ...  
<https://spreading-earth-science.com/pollen/>
  - まもなく花粉飛散 例年2倍以上も 平年の対策を 日本気象協会 ...  
<https://tenki.jp/forecaster/guruweather/2025/01...>
  - 【2025年1月】花粉症が統計史上最多で到来！平年の1.65倍 ...  
<https://youthrendab.net/entity/pollen-forecast...>
- Bottom Buttons:** "新しい検索" (New search), "今年の花粉症対策は？" (What are the measures for this year's pollen allergy?), and "花粉飛散量の地域別比較は？" (What is the regional comparison of pollen dispersion?).

全体的な傾向に加えて、地域ごとの予想もまとまっていて悪くない概要に思います(ちなみに僕は花粉症ではない。今年は多く飛ぶようで、花粉症の方ご愁傷様です 😊)。

### 目新しさはない？

Bing AI Search を少し使ってみたのですが、今となっては目新しくないかなというのが正直な印象です。

というのも、Google AI Overview や ChatGPT Search と機能的には大差はないからです。

Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

同じクエリの [Windows 11 24H2 の安全性は] の AIO 結果です。

Windows 11 24H2 の安全性は？

すべて ニュース 動画 図像 ショッピング ウェブ 書籍 :もっと見る ツール 詳細

AIによる概要

Windows 11 24H2は、ウイルス対策やプライバシー保護の機能が強化されおり、セキュリティ面で進化しています。ただし、セキュリティアップデータが受信できなくなる重大なバグも発生しています。

【セキュリティ機能】

- AIと機械学習による脅威検出
- 自動更新、リアルタイム監視
- 全ディスク暗号化
- 細分化されたアクセス制御
- プライバシーシャッショボードの提供
- セキュアプートとサンドボックス

【既知の問題】

- 物体検出と検出機能が有効になっているシナリオで、統合カメラを使用して問題が発生する可能性がある
- メディアを適用してWindows 11バージョン24H2をインストールした場合、デバイスはそれ以上のWindowsセキュリティ更新プログラムを受け入れることができない状況である可能性がある

【セキュリティアップデートの受信に関する問題】

- 2024年1月8日から11月12日の間にリリースされたセキュリティアップデートを含むメディアを使用してインストールした場合、システムが今後のセキュリティアップデートを受け付けない

この問題の影響を受けるユーザーは、更新されたインストールメディアの使用や再インストールなどの回避策が提案されています。

生産 AI は訓練済みです。

X ⌂ ⌂ ⌂

## Bing AI検索を使ってみた、Google AI OverviewやChatGPT Searchとはどう違う？

Microsoft Bing の AI Search という新しい検索プロダクトを実際に試してみた

AI がウェブの複数の情報を参照して概要にまとめて、関連リンクを提供するという点では完全に同じです。

こうなると、どの程度の粒度の情報を提供するか、古かったり誤っている情報を提供していないかという品質・信頼性の勝負になりそうです。

それでも、将来的には検索エンジンは AI と統合して、検索エンジン自身が回答を提供するという、こうした方向に向かうのでしょうか。

ユーザーが検索結果からウェブページにアクセスするのは、もっと詳しく知りたいとか、事実かどうかを慎重に確認したいとか必要なときだけです。

何はともあれ、Bing AI Search をあなたも自分の手で体験してください。

[このリンク](#)から試せます。

[Bing] の AI 結果が表示されますが、ページ下の「新しい検索」ボタンから始めてください。

 すずき注:英語の結果が生成されるかもしれないが、日本語で利用できる

## Googlebotが使用するIPアドレス更新、一部のCDNでクロール障害発生

Googlebot が使用している IP アドレスを一部変更した。この変更が原因で一部のサイトのクロールに障害が発生している。

Googlebot が使用している IP アドレスを一部変更しました。

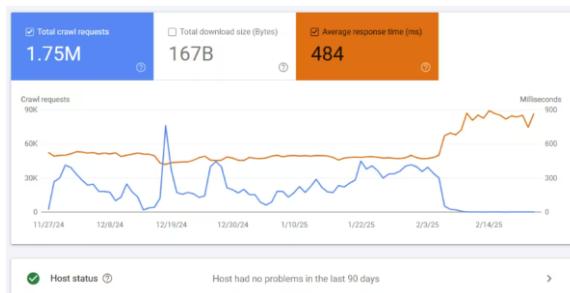
この変更が原因で一部のサイトのクロールに障害が発生しています。

### 応答時間は急増、クロールは激減

本物の Googlebot だけにサイトへのクロール(アクセス)を許可し、不正なアクセスを拒否するために、IP アドレスで制限をかけている環境があります。たとえば、CDN が設定しているセキュリティ対策用の WAF です。

しかし、Googlebot が使用している最新の IP アドレスが登録されていないと、本当は Googlebot であるにもかかわらず、許可されていないアクセス元だと誤認して Googlebot のクロールをブロックしてしまうケースが起きます。

こちらは、[実際に問題が発生したサイト](#)のクロールの統計情報です。



応答時間(オレンジの線)が急増しています。

対照的に、クロールリクエスト数(青の線)がゼロにまで落ち込んでいます。

これは、次を意味しています。

1. Googlebot のリクエストに対してサーバーが応答するのに通常よりも長い時間がかかる(ブロックしているのでサーバーが応答を拒否し、おそらくタイムアウトしている)
2. サーバーからの応答がないので、クロールできない(Googlebot がリソースをダウンロードできていない)

英語版 Search Central 公式ヘルプコミュニティでも[同様のトラブルの相談](#)が投稿されています。

## Googlebotが使用するIPアドレス更新、一部のCDNでクロール障害発生

Googlebot が使用している IP アドレスを一部変更した。この変更が原因で一部のサイトのクロールに障害が発生している。

### 原因は Googlebot の IP アドレス更新

Googlebot のクロールにこうした問題が発生した理由は、Googlebot が使用する IP アドレスが更新されたためです。

2月4日頃に更新したようです。

Googlebot の速度低下アラート！多くのウェブサイトで Googlebot のサーバー応答時間が大幅に遅延(最大 9000ms)し、クロール活動が減少しています。原因として考えられるのは、2025年2月4日にクロール用の IP アドレスを Google が更新したものの、一部の CDN がまだ対応できていないことです。

Gianna Brachetti-Truskawa  
@tentaclequing.bsky.social

Googlebot Slowdown Alert! 🚨 Many websites are experiencing massive server response times for Googlebot (up to 9000ms 🤯), causing crawl activity to drop. The likely reason? Google updated their IP addresses for crawling on Feb 4th 2025, but a few CDNs haven't caught up yet. 🤪

Feb 25, 2025 at 1:57

33 15 Reply Read 8 replies on Bluesky

### 自動更新の仕組みを

Googlebot の IP アドレス更新について、Google の John Mueller(ジョン・ミュラー)氏は次のように助言しています。

IP の JSON ファイルは自動的にプッシュされており、変更はときおり発生する。これらのファイルに関して内部でアラートを出す必要がある場合は、自由に同期してかまわない。直近の 3 回の更新を確認したところ、それぞれ IPv6 / IPv4 の IP ブロックが 2 つ追加されただけだった。大幅な変更が行われるわけではない。

微細なインフラ変更にウェブがどのように反応するかを予測するのは難しく、そうした理由もあって、これらの IP レンジを自動公開している。今回は一時的な問題だったことを願っている。

## Googlebotが使用するIPアドレス更新、一部のCDNでクロール障害発生

Googlebot が使用している IP アドレスを一部変更した。この変更が原因で一部のサイトのクロールに障害が発生している。

John Mueller  
@johnmu.com

We push the IP json files automatically -- changes happen from time to time. If you need to alert internally on those files, feel free to poll them. I checked the last three updates, they were each 2x IP blocks added (ipv6/v4). It's generally not a complete revamp.

Feb 25, 2025 at 3:03

Read 1 reply on Bluesky

John Mueller  
@johnmu.com

It's hard to know how the web will react to subtle infrastructure shifts, which is part of why we've been publishing these IP ranges automatically. Hopefully it was just a short-term blip!

Feb 25, 2025 at 3:08

Read 1 reply on Bluesky

更新は頻繁ではないものの、ときおり行われるそうです。

大手 CDN プロバイダーの Cloudflare では問題は発生していないようですが、一部の CDN (Akamai?) では更新に対応できていなかったためクロール障害が発生していたようです。

Googlebot の IP アドレス更新を自動で検出する仕組みを構築しておく必要があるという推奨に対して、ミューラー氏は次のようにコメントしています。

誰でも設定できそうなものだけれど。ただ、小規模なサイトがこの情報を活用できるかというと微妙だとも思う。「Google の IP アドレスが 2 つ増えた」と言われても、一般的な CDN やホスティングサービスを利用している場合は、そのサービス側が対応すべきことだから。

Googlebot の IP アドレスで何らかの制御をしていない限りは、関係のない話でした。

しかし、自社のサーバー/ネットワーク エンジニアが IP 制限を設定しているなら、自動化の仕組みも実装できているか確認しておきましょう。  
CDN を利用しているならプロバイダーが設定すべきことで、対応できていないなら問い合わせましょう。

Googlebot の IP アドレスリストは [JSON フォーマット](#)で公開されています。  
自動化の仕組みについては[ヘルプ記事](#)を参照できます。

## 100ページ以上の内部リンクを修正、Googleの再クロールにはどのくらいの時間がかかる？

ページ内容を変更したとき、Google が再クロールして変更を認識するまでには状況によっては、数週間から数か月かかる場合もある。

ページ内容を変更したとき、Google が再クロールして変更を認識するまでには状況によっては、数週間から数か月かかる場合もあります。

### 内部リンク先ページを新規追加、認識されるまでどのくらいかかる？

次のような状況のサイトをサポートしている SEO コンサルタントがいました。

あるクライアントの内部リンク構造がやや不自然でした。自動生成されたアンカーテキストが「特定のキーワード」で上位表示させたいページへリンクしていたものの、そのページの内容がアンカーの意図と合っていませんでした。そこで、アンカーを変更するのではなく、そのトピックに関する新しいページを作成し、リンク先の URL を差し替えたしました。

ブログ記事や製品 FAQ ページから、上位表示したページへ向けてそのページとはさほど関係がないアンカーテキストで内部リンクしている状態でした。

不自然だと判断したため、そのアンカーテキストの内容に合致したページを新規に作成し、リンク先 URL を貼り替えたというのです。

100 ページ以上に対してこうした対策を実行したようです。

この場合、Google は、各ページ・リンクごとに個別に更新を認識していくのか？、それとも、1 回のクロールですべてまとめて認識するのか？と、Google の John Mueller(ジョン・ミューラー) 氏にこの SEO コンサルタント は質問しました。

ミューラー氏は 次のように回答 します。

それは有効な修正だ。見つけにくいこともあるが、効果的だと思う。

シンプルだったり小規模だったりするのではないサイトの場合、再クロールや再処理には時間がかかるので、結果が反映されるまでには数週間から数ヶ月かかるだろう。

ページによっては 1 日に何度もクロール・再処理されるものもあれば、半年に一度しかクロールされないものもある。平均的なサイトなら「数週間～数ヶ月」が大半をカバーする適切な目安だと思うが、SEO の世界ではよく言われるように……「状況による」

## 100ページ以上の内部リンクを修正、Googleの再クロールにはどのくらいの時間がかかる？

ページ内容を変更したとき、Google が再クロールして変更を認識するまでには状況によっては、数週間から数か月かかる場合もある。



### 数週間～数か月が目安だが状況による

ミューラー氏はまず、この施策自体を支持します。

おそらくクライアントが、ツールか何かを使って上位表示させたいページに自動的に内部リンクを追加していたのだと思われます。好ましい施策ではないとこの SEO コンサルタントは判断し、内部リンクのアンカーテキストに見合ったコンテンツを新たに作成させました。

とても真っ当な指示だと僕も思います(指示に従ったクライアントも評価できる)。

さて、問題はこの後です。

少なくない数のページの内部リンクを修正したらしく、認識されるまでにどのくらいの時間を要するのかをこのコンサルタントは気にかけています。

ミューラー氏の回答は「数週間～数か月」がひとつの目安ということでした。

ですが、最後に付け足したように完全に状況によりますね。

一般的に、トップページへのクロールはそのサイトで最も頻繁です。

大規模でない僕のブログでさえ 1 日に数回は発生します。

一方で、アーカイブカテゴリや 10 年以上前に公開したページの再クロールは 2、3 か月に 1 回あるかないかです。

サイトの規模はもちろんのこと、日々の更新頻度やサイト全体の品質、サイトマップ、外部サイトからのリンクなどさまざまな要因によってクロールのタイミングは左右されます。

## 100ページ以上の内部リンクを修正、Googleの再クロールにはどのくらいの時間がかかる？

ページ内容を変更したとき、Google が再クロールして変更を認識するまでには状況によっては、数週間から数か月かかる場合もある。

### 今回のケースではサイトマップが有効か？

今回のケースで再クロールを早めるのに多少なりとも効果があるとしたら、サイトマップの送信でしょうか。

新規追加したページは、普通にサイトマップに記述して送信すればいいでしょう。

内部リンクを修正したページは、lastmod タグで更新日時を指定したサイトマップを送信します。

サイトマップによって再クロールが保証されるわけではないものの参考にはしてもらえます。

ページ数が少なければ、URL 検査ツールからのインデックス送信を利用できますが、今回のケースではページ数が多いので不向きです。

重要なページに関しては、トップページからの内部リンクも一定の効果が見込めます。

前述したように、トップページへのクロールが最も頻繁なので、更新したページへの内部リンクがトップページにあればそれを発見してクロール対象にしてもらえるからです。

## iOS版SafariでChatGPTをデフォルト検索エンジンとして設定できるようになる

iPhone 版 Safari で ChatGPT をデフォルトの検索エンジンに設定できるようになっている。

[iPhone 版 Safari で ChatGPT をデフォルトの検索エンジンに設定](#)できるようになっています。

### iPhone Safari の検索エンジンを ChatGPT に設定する方法

iPhone での ChatGPT 検索は、実際には Safari の拡張機能として実装されます。

設定方法は次のとおりです

1. [ChatGPT アプリ](#)の最新バージョンをインストールされていることを確認する(されていなければインストール)
2. 「設定」を開く
3. 「アプリ」→「Safari」→「拡張機能」
4. 「ChatGPT 検索」→「拡張機能を許可」を ON



このあとに、Google 検索で拡張機能が機能するようにアクセス許可を与える必要があります。

## iOS版SafariでChatGPTをデフォルト検索エンジンとして設定できるようになる

iPhone 版 Safari で ChatGPT をデフォルトの検索エンジンに設定できるようになっている。



検索バーの左にあるアイコンからアクセス付与します。

"ChatGPT 検索" が google.com  
へのアクセスを求めています。  
この機能拡張により Web ページの読み取  
りと変更が可能になり、この Web サイト  
での閲覧履歴が参照される可能性がありま  
す。これには、パスワード、電話番号、ク  
レジットカードなどの機密情報が含まれる  
可能性があります。

1日だけ許可

常に許可

設定を完了すると、以降は検索バーから検索すると ChatGPT 検索で検索が実行されます。

キャンセル

iOS 版 Safari で、ChatGPT をデフォルト検索エンジンに設定できるようになったことで、ChatGPT の検索シェアが増えるように予想するかもしれません、僕はさほど影響はないのではないかと予想します。

というのも、iOS 本体の「検索エンジン」設定からデフォルトの検索エンジンを切り替える機能ではなく、Safari の機能拡張を利用することで実装されているからです。わざわざ拡張機能まで進んで有効にする一般ユーザーが多いとは思えません(そもそも、ChatGPT アプリをインストールしている一般ユーザーがどのくらいいるのか?)。

なんにせよ、Safari の ChatGPT 検索を iPhone ユーザーは試してみるといいでしょう。